

学校だより

# 桜水だより

須賀川市立第一小学校

28年度 第 20号

No.217

平成28年 9月 5日

☎75-2851

## 第51回岩瀬地区PTA研究大会

8月7日(日)に須賀川市文化センターで、地区PTA研究大会が開かれました。多くのPTA会員の皆さんに参加していただきました。記念講演講師は、NPO法人「明日飛子ども自立の里」理事長で、ねむの木学園にもお勤めだった、清水国明さんでした。「子どもたちに魔法の杖を」という演題での講演でした。その概略をお知らせします。

講演 「子どもたちに魔法の杖を」 明日飛子ども自立の里理事長 清水国明 様

- 福島県は何色でしょうか。福島県は「水色とピンク」。本当の空と桃。それにあこがれて、ねむの木を退職し、福島県に移り住み、自立の里を作った。
- 「ここを飛び越えて、向こう側に行きなさい」と言っても、後ろから押されると、尻込みしてしまう。でも、居場所があって、安定していると、いつの日か、自分から飛び越えようとするものである。無条件で信じてもらっていることが、チャレンジの条件なのである。
- 授乳される生まれたての子。母の顔を見ながらの授乳は、人間と猿だけなのである。猿は飲みきるまで続けるが、人間の子は途中で眠ってしまう。人間は乳を飲むばかりでなく、コミュニケーションしているのである。
- たくさんの引きこもりの子と出会ってきた。ほとんどの子は、引きこもりから抜け出す力を持っているのである。持っていないのは、「自己信頼感」なのである。この自己信頼感こそが「魔法の杖」そのものである。
- どうしたら、手に入れることができるのか。脳科学者によれば、「成功体験」の積み上げであるという。成功体験は、自分がうまくできたと感じただけでは結びつかない。まわりの大人などに認めてもらえた時、成功体験となるのである。まわりに認めてもらえるかは、大きいことなのである。
- ほめてばかりでは、甘やかしになるとの説。日本人は、欧米人に比べて、ほめる回数も少なく、ほめ方も下手である。日本人にとって、ほめすぎはない。
- あなたは我が子に自信がありますか。我が子が大丈夫だと思えることができますか。ダメな人は、我が子を認めていない、ほめていない。それでは、我が子に「魔法の杖」を持たせてあげられない。
- 親子で「魔法の杖」を育むことができる。親と子が過ごす時間の質を高めるのである。一緒に体を動かして遊ぶのである。
- ティッシュ箱を丸めた新聞紙でたたいてつぶす。親子で本気でやる。大きな音が出る。お手玉でのジャグリング。置いた箱を蹴ったボールで倒すという、キックブレイク。
- 一緒に遊ぶことで、親と子が過ごす時間の質を高めることになる。そこから、子を見つめ直し、我が子を認め、ほめ、「魔法の杖」を持たせてあげられるのだ。